

種間交雑によるカーネーション品種の育成に関する研究

(第 1 報)数種野生種との種間交雑と後代雑種個体の特性

瀬尾龍右・祖一範夫

カーネーション(*Dianthus caryophyllus*)に *Dianthus* 属野生種の優良な形質を導入するため、カーネーションを種子親に数種類の *Dianthus* 属野生種を花粉親として種間交雑を行った。種間交雑で得られた後代雑種個体が獲得した形質とその特性について調査した。

1. *D.knappii* との種間交雑では結実率が高く、多くの種子が得られたが、その発芽率は低かった。また、種子親のカーネーション品種間で交雑親和性に差があった。雑種第 1 代の特性は草姿は両親の中間的な形態を示し、花色は赤紫色～赤色と黄色～黄緑色が中心で、色相の範囲は狭かった。

2. *D.carthusianorum* との種間交雑では雑種個体は得られたが、結実率と発芽率は低かった。雑種個体は生育途上でロゼット状態となって開花せず、草姿・花色は不明であった。

3. *D.banaticas*, *D.deltoides* の種間交雑では雑種個体は得られなかった。

4. *D.superbus* var. *longicaricinus* との種間交雑では雑種個体は得られたが、結実率と発芽率は低かった。

キーワード:種間交雑,カーネーション,*Dianthus* 属野生種